

# 住民の声

今回は、地域で頑張っている方たちの声をお聞きしたく、佐賀地域の市野々川地区をお尋ねしました。

「河内神社」改築は、旧集会所の撤去跡地に来年秋の完成予定(下)



打井川への道路連結が、今後の最大の課題です。(上)



平成23年3月に移転新築した集会所(下)



## 区長の声

市野々川部落は、戸数35戸、人口105人で市野々川沿いに点在の小集落からなる4班集体で運営しています。

事業面では、平成5年〜同10年の圃場整備後の大きな事業としては、町の合併後、佐賀地域初として当地区にて実施された山林地籍調査や、懸案であった集会所の移転新築も、住民のご理解・ご協力を得て無事に完了しています。また、近年、部落をあげて取組んで来た「河内神社」の建替えも順調に進んでいます。

当面の課題としては、南海地震の避難路や支援物資の供



給路の確保を目的として、当市野々川地区と四万十町打井川地区との連結があり、地区をあげて取り組んでいるところです。

最近の明るいニュースからですが、県外から2家族ものイターン転入があり、子どもたちのにぎやかな声が・・・声を絶やさないように、これからも見守りや支えに地域をあげて取り組んでいきます。

最後に、議会や町行政への一言ですが、議員の方々や町長を始めとする職員の方々の頑張りには満足しています。今後、同様の頑張りを期待するばかりです。

市野々川部落区長の山下鹿男さんと、農家民宿「かじか」のオーナーでも頑張る美枝子さんご夫婦。



## 編集後記

今定例会では平成24年度の決算の承認もあった。その内容からも最大の課題、かつ急務として取り組んでいる地震・津波対策の事業規模の大きさがくみ取れる。

膨大な作業量を前に日々頑張っている町長を始めとする職員の姿は頼もしいかぎりだが、このような大きな事業が着々と進むのも住民のご理解とご協力があったからこそとの再確認もできた。

更に、住民の災害対策への自発的な活動もだんだんと大きく育ってきている。

全国一の津波想定高を好機ととらえ、より一層災害にも強いまちづくりを住民と共に進めなくてはならない。

広報委員一同

### 議会広報常任委員会

- 委員長 宮川 徳光
- 副委員長 藤本 岩義
- 委員 坂本 あや
- 同 下村 勝幸
- 同 宮地 葉子
- 同 森 治史